

本人主体の支援体系の構築を 目指して―「第29回神奈川県障害 福祉職員実践報告会」開催報告

「神奈川県障害福祉職員実践報告会」は、1973（昭和48）年、「第1回愛護職員研究大会」から始まりました。

この大会は、本県の知的障害福祉に関わる機関・団体の協議会として、1963（同38）年に発足した「神奈川県精神薄弱者愛護協会」（現在は「神奈川県知的障害施設団体連合会（略称：県知連）」に改組）が中心となり、立ち上げたものです。

1979（同54）年2月には、「愛護研究発表大会」として、実



第29回大会・第3分科会「地域の暮らしへの（触法等を含めて）支援」の発表風景

践報告会と、「施設のこれから進む道」と題したパネルディスカッションが開催された記録が残っています。

その後、1998年から08年の間は休止していましたが、協会関係者からの再発足を希望する声を受けて、09年に再開することとなりました。

第29回大会は、新たに神奈川県身体障害施設協会（略称：県身障協）が加わり、県知連・神奈川県民間知的障害施設協同会の3団体の主催として、大会を「神奈川県障害福祉職員実践報告会」に改称。

「本人主体の支援体系の構築を目指す」をテーマに、2月3日に開催しました。

実践報告会の目的は、それぞれの施設で行われている日々の実践を報告し合い、施設職員の支援技術の向上を図り、障害福祉の向上につなげていくことです。

そこで、昨年9月から実行委員会を立ち上げ、その構成員は、県知連から施設長会・部課長等会・支援スタッフ部会の代表、協同会のマニュアル部会の委員、県身障協の委員とし、計4回の協議を踏まえて準備を進めました。

第29回神奈川県障害福祉職員実践報告会 分科会・実践報告テーマ一覧（抜粋）

(1) 困難事例への支援

強度行動障害への支援／入所施設内での生活環境の変化による強い不安から、攻撃的な行動が顕著になり、集団生活に困難をみせるようになった利用者への取り組み／ネグレクトからくる反応性愛着障害への支援（児童施設からの加齢児を受け入れて）／短期入所地域拠点事業所配置事業実績報告

(2) 相談支援のあり方

高次脳機能障害者の単身生活を支える地域連携／入所施設における相談支援―ストロングマネージメントを活用した余暇支援／家庭基盤の脆弱な知的障害者へのアプローチ

(3) 地域の暮らしへの（触法等含めて）支援

触法、ネグレクト等地域移行プロジェクトの取り組み／ケアホーム利用者の高齢化に伴う支援の実際／触法障害者の広域的支援の取り組み

(4) 発達障害児者の理解と支援

早期療育の視点と支援／広汎性発達障害児の入所後の地域移行について／突発的な粗暴行為が顕著な発達障害のある利用者への支援について

(5) 高齢化に伴う（医療的ケア等）支援

高齢化・重度化による摂食・嚥下の取り組み／入所利用者に対する経口摂取支援と他職種との連携について／医療的ケアの取り組み―医療と介護の現場協働を目指して／介護職員等による喀痰吸引等についての制度

(6) 日中活動の支援

中途障害者の日中活動／日中活動の再編／新たな生産活動への取り組み／家族とともに

特に分科会の企画については、

報告者や助言者との調整を含め、実行委員が総合的に進行管理を行ってまいります。また会場の準備など、県社協と協力して当日の運営を進めました。

基調講演では「人は、人の中で」との演題で、(福)十愛療育会理事長の日浦美智江さんにご講演いただき、分科会では「困難事例への支援」「相談支援のあり方」「地域の暮らしへの支援」「発達障害児者の理解と支援」「高齢化に伴う支援」「日中活動の支援」という6つのテーマに沿って実践報告を行いました。

当日は、昨年の参加者206名を超える、354名の参加があり、熱気のある情報交換・意見交換等が各分科会で行われました。

現在、第30回報告会（来年2月を予定）の開催に向け準備を進めているところです。今後も、関係団体からの幅広い実践の報告を行い、関係施設職員の支援技術の向上を目指していきたいと考えています。

◆神奈川県知的障害者施設団体連合会

☎ 045-316-5610

FAX 045-324-0426

URL <http://www.kanagawa-id.org/>

(神奈川県知的障害福祉協会)